

ロールモデル講演会 実施報告書

【演題】女性研究者・医療職として等身大で生きる ～ワークライフバランス～

【講師】錦織 淳美 氏（岡山大学病院薬剤部・薬剤師、Pharm. D.）

【日時】平成 30 年 10 月 9 日（火） 13：00～14：30

【場所】岐阜薬科大学本部 第二講義室

【参加者数】90 名（うち女性研究者 3 名）

所属機関：岐阜薬科大学 87 名、岐阜女子大学 1 名、アピ（株）2 名

講師は岐阜薬科大学卒業生であり、卒業後にアメリカのフロリダ大学薬学部にて臨床薬剤師の学位である Doctor of Pharmacy (Pharm.D.) を取得した経歴を持つ。現在は大学病院の薬剤師であるが、調剤や服薬指導などを行う薬剤師業務だけではなく、研究活動、大学講義で教壇に立つなど、幅広く活躍されている。

まずは医療人が行う研究について、講師が行っている研究の概要紹介された。病院薬剤師でありながら科研費も取得しており、その研究内容についても紹介があった。業務中に疑問に思うことが研究課題になると言われた。



次に、一昨年、アリゾナ州ツーソンメディカルセンター病院において、退院後フォローアッププログラムの電話カウンセリングシステムの見学・研修に参加されたため、その内容の紹介があった。アメリカでは、退院後 1 ヶ月以内に再入院するとその医療費について医療保険から支払われないことになっているため、このシステムを考案・導入されており、アメリカらしい制度と実感したそうである。

また、昨年はニュージーランドや岡山大学の海外派遣プログラムによりフィリピンの薬局に研修に行き、実地で多くのことを学んだと話された。

3 つ目のテーマとして、岡山大学病院で一昨年度より取り組んでいる「保険薬局薬剤師向けのシミュレーション教育」の開発について、実際の映像もまじえて紹介していただいた。医師や看護師と共通言語、つまり専門用語を理解して医療現場で薬剤師として任務を全うすべく、研修プログラムの構築に取り組んでいるということであった。

最後に、ワーク&ライフ・バランスのとり方について、講師の実経験にもとづき話していただいた。岡山大学の取り組み、さらに今後の目標についてお話しいただいた。家庭（プライベート）と仕事のバランスをとり、そのために家族や友人の協力を得たり、仕事の選択（在宅でできる業務）を行ってきたりした。気力、体力、公私ともに時間を確保し自分の中で優先順位をつけてバランスをとり、志を維持していくことの重要性をお話いただき、学生や研究者にとって励みになるものであったと思われる。

まとめとして、研究者として続けていくために重要なこととして、研究マインド（疑問点や問題点の抽出、気力の維持）、チームの協力、情報収集・推進力と時流を感じるアンテナを常に立てていること、を挙げられた。また、自身のキャリアに特性を見つけて伸ばしていく努力を惜しまない重要性も述べられた。

病院薬剤師として働く講師の話聞き、薬剤師としての業務、研究者としての取り組み、大学教員としての講義内容など、様々な業務について紹介いただき、大学病院勤務の薬剤師の姿を具体的に知ることができた。また、結婚、出産などライフイベントの話だけではなく、仕事に取り組む姿勢について多く話していただき、学生にとっては今後の人生設計において大いに参考になる有意義な講演会であった。



講演会後には、講師を囲んで直接質問をする場を設けたところ、6人の女子学生の参加があった。海外留学や海外での仕事、モチベーションの維持について具体的に話をしていただき、学生の意識向上や励みになったと思われる。